

筑波大学

哲学・思想学系論集

第4号

昭和53年度

筑波大学 哲学・思想学系

巻頭にあたって

この紀要『哲学・思想学系論集』は昭和五十年度に創刊してより、本年度はすでに四年目となるが、ここに至るまでは、それぞれに号数を附することなく経過した。しかし、本論集（年一回刊行）の年度による刊行の区別のみでは、ともすれば不便を伴うことなきにしもあらず、遅ればせながら、本年度刊行に際してその号数を附加することとした。したがって、本年度のこの論集は第四号ということになり、また当然のことながら、既刊の昭和五十年度のものは創刊号、同五十一年度のものは第二号、同五十二年度のものは第三号に相当することとなる。爾後のため、ここにこのことを銘記する次第である。

ところで、この筑波の地に本学がその研究と教育の営みを発足させてより五星霜、なお建設の槌音の中にある。だが思えば、人間の歩み、殊に学的研究の道は、もうこれで終了という完結点はなくて、常にそれは途中にあると言えよう。およそ研究と教育のことは、絶えず人間存在の根本的な、もしくは理想的なありようの問題に立ちかえってくる。わけても私どもの哲学研究は、この根源的な問題に常に立ちかえり、あるいは、これを目指しつつ、その営みの道を一步一步と歩み続けねばならない。その意味で、この歩みは、常に「途中に在って家舎を離れず」であり、また「家舎を離れて途中に在らず」（『臨濟録（上堂の部）』）とも言えるであろう。かつまた、研究・教育という車の両輪の転ずるありかたも、またかくのごとくであるであろう。本論集も、そのような歩みの中で、ここにその第四号を公けにし、かわらぬご批正を賜わらんことを念ずる次第である。

昭和五十四年三月

目次

伝統と再新	
歴史哲学の一テーゼ	大島康正……………一
無意識の实在性	
— 『人間と世界』への一章 —	永井博……………一七
ヘルダーとカントにおける啓蒙主義と絶対主義	村上隆夫……………一〇
プラトンの宇宙の時間性と空間性 (二)	矢内光一……………一六
王弼考	堀池信夫……………一七
金光教学と人間教祖論	
— 金光教の発生序説 —	島藺進……………二〇

STUDIES

1978

INSTITUTE OF PHILOSOPHY
THE UNIVERSITY OF TSUKUBA

CONTENTS

Yasumasa OHSHIMA: Tradition and Re-New —One Thesis of the Philosophy of History—	1
Hiroshi NAGAI: Reality of the Unconscious —A Chapter Devoted to <i>Man and the World</i> —	17
Takao MURAKAMI: Absolutism and Enlightenment in Herder and Kant.....	45
Kōichi YANAI: Temporality and Spatiality of Plato's Universe, II	69
Nobuo HORIIKE: A Study on Wang Bi	79
Susumu SHIMAZONO: Konkokyo Theology and the Study of the Founder's Inner Life	101

SUMMARIES of ARTICLES.....	(1)
----------------------------	-----

筑波大学 哲学・思想学系

研究員 助 手 講 師 助 教 授 教 授

島 矢 村 松 堀 野 別 広 野 奈 辻 嶋 川 上 池 飯 山 永 高 高 三 木 川 小 大 井
 蘭 内 上 田 池 田 府 神 町 良 村 田 崎 笹 田 塚 田 井 橋 木 枝 全 部 川 島 門
 光 隆 信 茂 淳 博 誠 信 美 勝 英 勘 充 德 圭 康 富
 進 一 夫 弘 夫 德 夫 清 啓 順 三 厚 定 恒 恵 久 世 博 進 式 憲 雄 保 治 正 夫

(昭和五十四年三月現在)

昭和五十四年三月二十日 印刷
昭和五十四年三月三十一日 発行
(非売品)

編 者 兼 行 者 筑波大学 哲学・思想学系

〒300-31 茨城県新治郡桜村天王台一丁目一番地の一

印 刷 者 株式会社 国 際 印 刷

東京都中央区八丁堀三丁目二十一番四号

STUDIES

No.4

1978

INSTITUTE OF PHILOSOPHY
THE UNIVERSITY OF TSUKUBA